

**NPO 法人近畿水の塾**

**平成26年度事業報告書**

**平成27年5月**

## 継続的な公開研究会『河川塾』の実施

### 1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾事業の一つとして継続している。

### 2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2015年4月の定例会で第150回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関りなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古老に聞くシリーズ。2009年はマイジョブ&リバー、番外編を中心に10年を経て第100回記念企画、2010年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、2011年からはマイジョブ&リバーなどを中心に展開し、また参加費(資料代)を会員外500円、会員無料とし参加の枠を広げている。

145	10/22	ミシガン州の川事情を中心に、自然や社会について感じたこと 瀧健太郎(関西広域連合 本部事務局・滋賀県)
146	11/29	(映画)越後奥三面山に生かされた日々 鑑賞と澁澤寿一氏に聴く
147	H27 1/28	写真による関西のごみ調査 神谷潔(スタジオ北山山荘)
148	2/25	学生の水辺活動の広がり 石田裕子(摂南大学理工学部都市環境工学科)
149	3/25	統合的流域管理 瀧健太郎(関西広域連合 本部事務局・滋賀県)
150	4/22	楽しみながらの社会活動(建築家編)~東北の手しごと展/建築とこども達(ワークショップ) 所千夏(アトリエCK 主宰)、(助手) 菅家克子(菅家建築設計室)

### 3. 成果

近畿における川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

### 4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
  - ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
  - ・二級河川の流域連携
- など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

### 5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
  - ・河川踏査、写真・資料収集等
  - ・干潟事例報告、提案
  - ・環境学習の検討報告
  - ・河川で合宿 フィールドワーク
- などを検討中である。

(報告 西河嗣郎)

回	月/日	内 容
140	4/20	観濠クルーズ Sakai 乗船(西河理事) 津波高潮ステーション見学(大阪府西大阪治水事務所)
140	5/31	(第13期総会記念講演) 尼崎市におけるソーシャルビジネスの取り組み 安田理事&立石孝裕(尼崎市役所) ソーシャルビジネスが社会を変える 能島裕介(NPO法人プレーンヒューマニティー理事長、尼崎市参与)
142	7/23	佐賀市における地域密着した資源循環型下水処理のあゆみ(第15回日本水大賞未来開拓賞受賞プロジェクト) 山口徳雄(元佐賀市上下水道局下水浄化センター所長)
143	8/27	滋賀における地(知)の拠点 北井香(滋賀県立大学特別研究員)
144	9/24	鴨川景色40年」鴨川側景色の変遷 神谷潔(スタジオ北山山荘)

## 近畿水環境交流会 in 淀川・寝屋川市の開催

■日時:平成 26 年 7 月 26 日(土)~7 月 27 日(日)

■場所:摂南大学・淀川点野河川敷(淀川左岸)

1 日目 寝屋川市・摂南大学寝屋川キャンパス  
11 号館 11 階スカイラウンジ

2 日目 淀川点野河川敷(淀川左岸)

■内容(1 日目)

9:30-10:00 見学会受付(寝屋川市駅前)

10:00-12:00 施設見学(寝屋川駅前せせらぎ公園  
園~幸町公園~川勝水辺ひろば~大阪府水生  
生物センター)

13:30-14:00 シンポジウム受付

14:00-17:30 シンポジウム

18:00-懇親会

■澤井摂南大学名誉教授あいさつ

1999(平成 11)年「淀川流域水環境交流会」として琵琶湖で E ボートレースをした。平成 12 年日吉ダム、13 年枚方水辺公園、14 年神崎川、15 年淀川大和川として奈良市と布目ダム。16 年柏原で大和川、17 年紀ノ川から「近畿水環境交流会」とした。全国水環境交流会の近畿バージョンにあたる。2013 年第 15 回は由良川で実施。その 2 週間後に花火大会での爆発事故。その 1 カ月後に大水害で、8 月 30 日適用された特別警報が発令された。

川は環境、景観、防災など様々なことを学べる場。キャッチフレーズの「活かそう水辺」は水辺を活用したい、命を大切にしたいということ。「つなごう流れ」は地域流域にまたがる空間、いろいろな立場、学生と教員、行政と市民住民、行政も分野を越えたい。時をつなぎ、子どもたちにつなげたい。学生さんにご高齢の方の知恵をつなぎたい。みなさん、学生さんに感謝します。

■馬場市長メッセージ

■摂南大学井光規(みつのり)学長あいさつ

■田村公一さん講演

昨年 9 月洪水はレベル 3 です。淀川はきれいになってきた。

■上田豪さん 14:55-15:35 パワーポイントによる紹介。

■各地域からの報告 15:45~

①ウォーターステーション琵琶 吉岡美佐子さん

②木津川流域ネットワーク 郡さん

③淀川愛好会 沼野さん、深野さん

④エコシビル部 小野部長

⑤大和川市民ネットワーク 小松さん

⑥桂川流域ネットワーク 仁枝さん

⑦武庫川流域圏ネットワーク 久保田

⑧紀ノ川の水質環境を守る会 赤井さん

⑨近畿子どもの水辺ネットワーク 辻山さん

●会場から

親、先生も生徒になってもらい、体験してもらう。

●久保田メモ

自然とのつきあいが、ふるさと意識、危機管理能力を育てる。2000 年川に学ぶシンポジウム IN 近畿は、子どもを川にいざなうことがテーマだった。

■内容(2 日目)

水辺利用の実践淀川河川敷(淀川新橋左岸下流)

8:30-9:00 受付淀川点野砂州前テント

9:00-9:30 河岸清掃

9:30-10:00 開会式

10:00-12:00 淀川まるごと体験会

12:00-13:00 昼食休憩

13:00-15:00 E ボートレース

15:00-15:30 閉会式、後片付け

2 日目は河川レンジャーが取り組む「淀川まるごと体験会」との共催で実施されました。まず河川敷のごみひろいから始まり、もんどりによる魚取りもありました。午前中はブラックバスが 1 匹。午後は投網を行ない、ブルーギルが 1 匹、ブラックバスが 2 匹、ニゴイ 1 匹。その後子どもたちの E ボート体験があり、コーナーではアシ笛づくり、樹木のプランコなどがありました。

昼からはあいにくの雨が 2 回ほど断続的に続いたため、E ボートレースは 1 巡限りとなり、若い世代が活躍。近畿水の塾グループは 12 チーム中 10 位。土のう積み体験あり。結果的には雨のおかげで暑さが和らぎ、何よりだったと思います。

点野のこの場所は河川公園区域ではありませんが、活動の成果もあり、高水敷の切り下げが実現しそうです。運動広場ではなく、淀川流域で初めて、自然を活かした学習体験の場として河川公園が拡張されるのです。自然を大切にしようという市民活動が実を結びつつあります(ワークショップは 9 月 14 日実施されました)。

2015(平成 27)年は 7 月 25 日(土)、26 日(日)京都・伏見の予定です。(報告 久保田 洋一)



1 日目。寝屋川駅前せせらぎ公園。2005(平成 17)年 4 月開設。中央のヤナギは移設したもの。



幸町公園。都市公園を川に沿った形に移動させています。2009(平成21)年4月開設。



川勝水辺ひろば。大阪府による事業です。魚道ができています。2013(平成25)年6月開設。



水生生物センターです。子どものためのイベントが開かれていました。



茨田樋遺跡水辺公園。市民工事の「はしり」ともいえます。2007(平成19)年4月開設。



摂南大学 11号館でシンポジウム。澤井先生は退職されましたが、この取り組みの推進役は継続。



2日目 高校生が子どもたちに魚の解説をしました。土のう積み体験もしました。



水中歩行体験です。机を利用しています。30センチの深さは危険なことがわかります。



E ボートレースです。安全性確保には常に気をつけています。

(2) 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

第11回～猪名川・藻川にきれいな流れを取り戻そう～水辺まつり

開催日：平成26年9月21日（日）

場所：尼崎市田能（藻川 中園橋東詰下流側河川敷）

故人 畑 喜一郎氏の呼びかけで始まった「水辺まつり」。

今回は、主催者発表ではあるが、4000人を超える来場者があり大盛況であった。

ただ、畑氏の想いは、「川から離れてしまった人々の心呼び戻し、かつての清流を取り戻そう」であった。

フリーマーケットや、踊りのパフォーマンスなど、河川敷に多くの人々が下りてきて楽しむのは、良いことだ。

ただ、「川」に関心が戻ったかは、難しいところである。

その中で、摂南大学エコシビル部によるEボートの運航。

これは、誠に有効である。

第1回目から運航されており、この祭りに欠かせないものとなっている。

ただ、会場付近の藻川の水深が浅くゴム製のEボートは、使えない。

FRP製のEボートで、なんとか対応している。

平成27年は、9月22日に開催予定である。

主催者は、当然 運航してくれるものと思っているようだが、FRP製Eボートがボロボロになって、かわいそうな状態になっている。

どうしたものか・・・

平成26年から、近畿水の塾として、主催者に申し入れ実現したことに、尼崎市下

水道部のPRブース設置がある。

猪名川に清流を取り戻すには、流域住民の出す生活雑排水を綺麗にし、下水処理施設に負担をかけないことが必要である。

そもそも、この地域の水道の流れは、上水を淀川でとり、使用後の下水を猪名川、神崎川に入れているため、猪名川、神崎川の水質が悪いのだ。

水質を良くするためには、地域住民の意識を高め、「家庭から下水処理施設に負担をかけない水しか流さない」を徹底するしかない。

尼崎市下水道部の職員は、「おとなしめ」でしたが、ブースに来てくれた来場者に丁寧に説明しておられた。

今年度も、参加していただけたらと思う。

今年度は、舞台の時間を確保するので、下水道クイズなど、派手なアピールを期待したい。（報告：白樫）



## 2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

### 拡大版河川塾

「『越後奥三面 山に生かされた日々』を観る。現場詳しい澁澤寿一さんに聴く」の詳細報告

日時：平成26年11月29日（土）13時30分～17時。

場所：尼崎市小田公民館

#### 1. はじめに

近畿水の塾、久々の映画会でした。

新潟県北部、村上市に流れ出る三面川の最上流域の奥三面の集落の暮らしぶりを撮った民族文化映像研究所の1984年映画作品を、事情に通じている澁澤寿一さんをお招きして、解説して頂く会でした。

#### 2. 映画作品紹介、感想。

マタギの村であり、縄文の流れを感じる暮らし。雪深い地での集落総出の仕事、例えば、クマ狩り、丸太舟を作る大木の切り出しが淡々と、あるいは少々楽しくも紹介されます。1984年つい先年まで、そこにはその暮らしが、厳然とあった。その暮らしの逞しさ、共同体の原点、必然性も強く考えさせられました。薄っぺらな「自然と共生」と言う語を易々と使えない思いを感じるものでした。「山稼ぎ」、クマ狩りは総出で行っても獲物収獲の無い場合もあるが、東京への「出稼ぎ」は間違いなく、収入があると言った村人の言葉を印象に残した。近代が日本に為した事！84年の撮影のあったその後村はダムに沈んだらしい。ダム建設反対を標榜した映画ではないが、お前もか！！の思いであった。

#### 3. 澁澤 寿一（しぶさわ じゅいち）さんのご紹介、感想。

1952年生まれ。東京農業大学大学院修了の農学博士。

1980年国際協力事業団専門家としてパラグアイ国立農業試験場に赴任。帰国後、長崎オランダ村、循環型都市「ハウステンボス」の役員として企画、建設、運営まで携わる。

現在、樹木・環境ネットワーク協会ならびに共存の森ネットワーク理事長として日本やアジア各国の環境NGOと地域づくり、人づくりの活動を実践中。全国の高校生100人が「森の名手・名人」や「海・川の名人」をたずねて聞き書きし、発信する「聞き書き甲子園」の事業など、森林文化の教育、啓発を行っている。明治初期に第一国立銀行を経営するなど、大実業家として活躍し、社会事業や教育にも尽力した澁澤栄一の曾孫にあたります。

その栄一さんの時代から、ご当地に縁の深い澁澤家。寿一さんも何度の足を運ばれていて、村や映画の秘話、そして、その地で住める、養える人口の限界などを解説、ご紹介頂いた。

映画のすばらしさでもあるが、澁澤寿一さんが人格者である事がひしひしと感じられた。それでいて、アフターの懇親会も二次会までもお付き合い頂く気さくさ。ファンの多い事が納得できた。

#### 4. 成果、今後

ファンと言えば、西宮に本拠のある「お米の勉強会」（代表：村山日南子さん）の方、数名が翌日に澁澤さんをお招きすると言う事ですが、我が会にも参加してくれた。会同士の交流の機会にもなった。会員外参加が21名と言う、我が会はじまって以来の盛況ぶりであった。会員内外、参加者一同、異口同音の感動の音が聴かれた。

映画の続編・第二部の上映会をの声も出ている。また、澁澤寿一ファンの滋賀県大・上田洋平助教との共催での第二回映画会と言う話もある。映画について、「日本と原発」の映画会開催の声もある。

以上

（報告者：福廣 勝介）



民族文化映像研究所 映画作品 50 えちごおくみおもて

# 越後奥三面 一山に生かされた日々

新潟県の北部、山形県との県境にある朝日連峰の懐深くに位置する奥三面。平家の落人伝説をもち、また縄文遺跡も残る歴史の古い山村である。人々は山にとりつき、山の恵みを受けて暮らし続けてきた。その奥三面がダム湖の湖底に沈む。この映画は、山の自然に見事に対応した奥三面の人々の生活を四季を通じて追ひ、ダム建設による閉村を前にした人々の想いをつづった長編記録である。

奥三面の人たちにとって、生活の基本は3万 haの山地である。その山地をいかに全面的に活用しながら人々が生きてきたか。記録スタッフは、一軒の家と畑を借り、そのことを見つめ続けてきた。

深い雪におおわれる冬、山猟。昭和30年代にカモシカ猟が禁止されるまで、厳しい戒律をもつスノヤマとよばれるカモシカ猟が行われた。現在は、ウサギなどの小動物の猟、そして堅雪の季節には熊狩りが行われる。これらは、冬の間の重要な動物性たんぱく質の供給源である。春、ゼンマイをはじめとする山菜採りが始まる。特にゼンマイ採りは家族総出で働き、戦争とよぶほど忙しい。そして田植え。ここにはすでに慶長2年(1597年)の「ここに田あり」という記録もある。夏はかつてはカノ(焼畑)の季節であった。川ではドオヤヤスで、サケ・マス・イワナなどが捕られた。秋、木の実・キノコ採り。山菜とともに長い冬の保存食である。そしてオソや鉄砲による秋の狩り。

記録作業を始めて4年目の冬、初めて、村人たちにダム水没問題を問いかけた。ある村人が言う。「山、山、山……。幾多の恩恵、心の支え……。山しかねえな、山の暮らししかねえなあ」。

そしてその冬、村人たちの雪山行に同行させてもらった。長柄の槍で斜面の深い雪をそぎ落としながら登っていった。狩りのためではない、山仕事のためでもない、ただ祖先の使った狩衣装をつけ、祖先がやったようにやってみたいという、いわば祖先への想いかられた無償の行為であった。

なお、関連作品として、1984年6月から開村以後の1995年秋にいたるまでの11年間、移転先での人々の生活を記録しまとめた「越後奥三面第二部 一ふるさととは消えたか」(154分/映画作品97)がある。

●スタッフ 姫田忠義/小泉修吉/伊藤碩男/澤幡正範/堀田泰寛/千葉寛/中川邦彦/西別府出/小原信之/田口洋美/伊東琴/山本則子/鈴木正義/瀧上  
挙/本間喜美雄/入谷勝/中根編集室/ソニー・PCL/青山録音センター ●協力 奥三面の文化財保存をすすめる会/新潟県朝日村/財団法人トヨタ財団  
●1984年/145分/自主制作/ (協力) トヨタ財団/1984年優秀映画鑑賞会特薦/1984年日本映画ペンクラブ特別推薦/1984年度日本映画ペンクラブノンシア  
トリカル部門第1位/1984年キネマ旬報文化映画ベストテン2位/1986年シカゴ国際映画祭ドキュメンタリー部門銀賞/新潟県岩船朝日村奥三面

## ホームページの作成・更新等についての事業報告

### 1. はじめに

当会では平成 14 年 9 月 15 日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

### 2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
  - ・ 入会方法
  - ・ 設立の経緯、総会資料
  - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
  - ・ 当会主催のイベント案内
  - ・ 河川塾案内
  - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
  - ・ 当会の活動報告
  - ・ 河川塾通信
  - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
  - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集

### 3. 成果

随時更新を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室としての利用もされている。総会資料についても掲載している。

### 4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介をするなど内容充実を目指す。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらおうように工夫する。

<http://www.geocities.jp/npokinkimizunojuku/>

ブックマーク、名刺に印刷をお願いします。

(報告者：安田 博之)



# 河川塾内容一覧

場所：河川情報センター6F会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

2015/5/22現在

回	日時	講師 & テーマ
第141回	5月31日（土）	(小田公民館) 第13期総会記念講演 尼崎市におけるソーシャルビジネスの取組み 安田理事&立石孝裕（尼崎市役所） ソーシャルビジネスが社会を変える 能島裕介（NPO法人ブレンヒューマニティー理事長、尼崎市参与）
第142回	7月23日（水）	(菅家設計室) 佐賀市における地域密着した資源循環型下水処理のあゆみ（第15回日本水大賞未来開拓賞受賞プロジェクト） 山口徳雄（元佐賀市上下水道局下水浄化センター所長）
第143回	8月27日（水）	滋賀における地（知）の拠点 北井香（滋賀県立大学特別研究員）
第144回	9月24日（水）	鴨川景色40年「鴨川側景色の変遷」 神谷潔（スタジオ北山山荘）
第145回	10月22日（水）	米国ミシガン州の川事情を中心に、自然や社会について感じたこと 瀧健太郎（関西広域連合 本部事務局・滋賀県）
第146回	11月29日（土）	(小田公民館) (映画) 越後奥三面 山に生かされた日々鑑賞 渋澤寿一
第147回	平成27年 1月28日（水）	写真による関西のごみ調査 神谷潔（スタジオ北山山荘）
第148回	2月25日（水）	学生の水辺活動の広がり 石田裕子（摂南大学理工学部都市環境工学科）
第149回	3月25日（水）	統合的流域管理 瀧健太郎（関西広域連合 本部事務局・滋賀県）
第150回	4月22日（水）	(菅家設計室) 楽しみながらの社会活動（建築家編）～東北の手しごと展/建築と子ども達（ワークショップ）所千夏(アトリエCK主宰)、（助手）菅家克子（菅家建築設計室）